百年に寄せて

山城57回　仲野枝里

創立百年おめでとうございます。

私は二〇〇四年に山城高校を卒業しました。在学時には色々とお世話になりました。簡単に百年と申しますが、百年前というと明治時代です。新札の人物像に選ばれた樋口一葉や野口英世も生存していた時代です。そんな昔から山城高校があったと思うと、長い歴史があるのだなあと感心するばかりです。

私は京都市の伏見区に住んでいるのですが、校区外の山城高校に通いました。何故かといいますと、聴覚障害を持っていて、聴覚障害教育部がある山城高校で勉強したかったからです。在学時には手話通訳やＯＨＰ、字幕付けなど様々な情報保障をして頂き、充実した学校生活を送ることが出来ました。聴覚障害生徒の受け入れが始まったのは一九七一年、聴覚障害教育部が設立されたのは一九七八年です。当時に使われていた補助機器は二人がかりでないと運べない位、大きくて重かったそうです。現在は小型補聴器や小型マイクなど、一人で楽に持てる物があり、便利になっています。しかし、便利とは裏腹に、人々は助

け合うことを忘れつつあるのではないかと思います。昔ならば二人がかりで持たなければならなかったので、「手伝うよ。」と声を掛け合い、助け合うことがあったそうです。便利なモノが溢れている今こそ、昔を見直す最大の機会ではないでしょうか。

因みに私は手話部に所属していました。この学校の手話部は単に手話をするだけではなく、週に一回聴覚障害生徒について話し合いをして、情報保障の補助や聴覚障害の理解などをしています。手話部は聞こえる、聞こえないに関係なく、皆個性的だったので楽しかったです。毎年夏に行われる合宿が一番印象深いです。手話で自分の課題発表や討論などをしましたが、自分で生きた手話を使えるのでいつもより生き生きしていたと思います。これからも個性的かつパワフルな部であってほしいと思っています。

話がそれますが、私の好きな言葉に「笑う門には福来たる」ということわざがあります。笑って楽しく暮らしていれば良いことが起きる、という意味ですが、本当だと思いませんか。青少年の事件などが当たり前になってきつつある現代においては必要なことだと思います。笑っているだけではそう簡単によくならないと思いますが、誰かが「笑う」と周りの人々も小さな幸せを感じると思うのです。この小さな幸せが良いのだと思います。皆様も笑って小さな幸せを感じませんか。

最後になりましたが、山城高校の今後の発展をお祈りします。